

曾於文藝

うたごよみ

題 字

末吉文化協会会員
瀬戸口 淳氏氏

俳句

末吉俳句会

岩を這ふ僅かな湿り岩煙草

古藤 まゆ美

峡谷の渦より生るとんぼかな

米澤 水無月

紺青を一際立たす滝飛沫

有満 けんじ

大陽俳句会

子が矮鶏と遊ぶ離れ家夏休

福村 よう子

揺れゐるは揚羽のしわざ鹿の子百合

岩重 みどり

海の日や父の青春江田島か

鍋山 美智子

短歌

末吉短歌会

花壇の中でだんご虫何匹踏んだろうか

死んだふりせずさつさとお逃げ

長倉 佳津子

夫の遺影バッグにしのばせ祝詞受く

金婚式の末席しめて

森岡 ちどり

すれ違ふ豚満載のトラックに

アウシユビッツの映像よぎる

宝蔵 弘二

大陽短歌会

青空の下に平和の歌うたいし

昭和は貧しも夢溢れいつ

川辺 敦子

午前四時激しき雨に庭を見る

カサブランカの花弁散りおり

北村 弘子

急逝の歌友の御魂に託さるや

墓への道を蟬がいざなう

西山 美代子

曾於やごろう短歌会

この庭は鳥のしゃべり場コジュケイが

夏盛りよと声けたたまし

戸高 幸子

何見ても晴れぬ気持ちに胸にして

どこ歩いててもさまよいっている

橋口 幸子

財部短歌会

ザアツときてササツと去りゆくにわか雨

ほつと安らぐ庭の草花

杉村 リカ

山茶花の枝切りたれば鳥の巣が

完全破壊の吾は外敵

児玉 次雄

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

禪シミズ 突然客来つ

高瀬 博多夜舟

大騒動しつ

震度七 電気水道が

浜田 一好

地震で麻痺

若者な 野球爺婆台風

桐野 奈世

心配なこつ

暑も暑 クーラーも効かじ

西留 辰子

団扇加勢

酷暑日ち 聴つ慣れた耳ん

胡摩ヶ野 べぶまつ

怖も怖